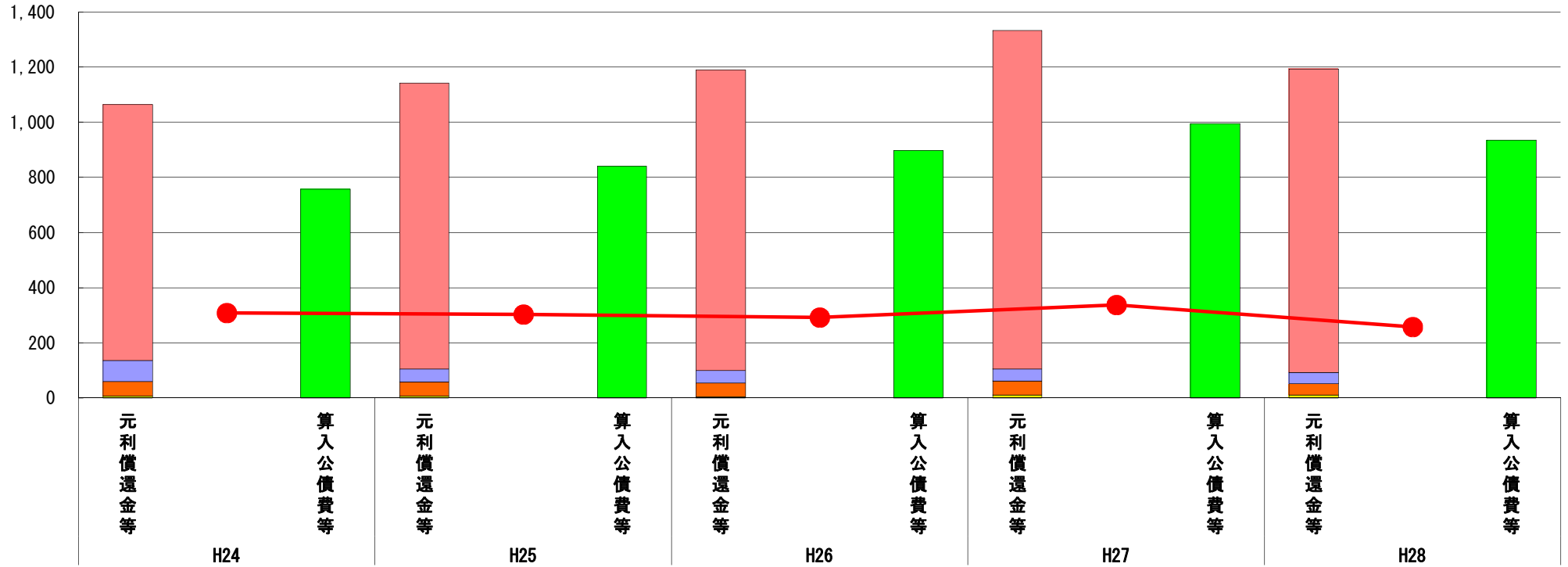


(9) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成28年度

北海道幌延町

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H24	H25	H26	H27	H28
元利償還金等 (A)	元利償還金		929	1,038	1,090	1,227	1,101
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		76	47	46	45	40
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		53	51	51	51	43
	債務負担行為に基づく支出額		7	7	3	10	10
	一時借入金の利子		-	-	0	0	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等		757	840	897	995	936
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		308	303	293	338	258

分析欄

平成23年度から大型建設事業の実施に係る地方債の元金償還が始まったため、大幅な分子増額となっており、平成27年度が公債費のピークである。
 しかしこれは、意図的に償還年数を圧縮したものであり、交付税算入すると有利な地方債が多く占めることにより、経常一般財源が確保できるため、それほど懸念すべき状況ではないと思われる。

※平成29年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。